

# 道徳科学習指導案

## 主題名「だいすきなかぞく」〔学指要領：C 家族愛、家庭生活の充実〕

令和5年11月17日（金） 第5校時 1年1組教室  
みなかみ町立古馬牧小学校 1年1組 指導者 齊藤 久美子

### I 主題設定の理由

#### 1 価値観

本主題は、小学校学習指導要領「特別の教科道徳編」の内容項目C主として集団や社会との関わりに関することの家族愛、家庭生活の充実に基づくものである。これは、親子の関係は何よりも大切であるという気持ちに気付かせ、敬愛の念を深める内容項目である。

家族のいる家庭は児童にとって最も心の休まる場所である。なぜならば、家族は児童が所属する初めての社会集団であり、家族の愛情の中で育てられているからである。児童は、自然な感情として、家族を大好きな気持ち、家族の代わりはいないという心情をもっている。一方では、家族が日頃自分のためにしてくれていることに対して、自分が家族の愛を受け取っているという意識をもっている児童は少ない。

学校生活では、係や当番の仕事に意欲的に取り組んでいて、1学期よりも考えて行動できるようになり、成長を感じている。また、お手伝いも率先して取り組むことができる児童が多く、奉仕することに対して喜びを感じている。一方、家庭では甘えや疲れもあり、決められたお手伝いをしている児童は少ない。

そこで、自分も家族の一員として役に立ちたい、家族の役割を果たしていきたいという気持ちが芽生えてきているこの時期に、家族を敬愛し、家族が支え合って生活していくことの大切さに気付かせ、自分が家族のためにできることを考え、よりよい家庭生活を築いていこうという心情を高めて、実践できる力を養うことが大切であると考え、本主題の学習を設定した。

#### 2 児童観

本学級の児童は、進んでお手伝いができ、相手の喜びを、自分の喜びと感じられる児童が多い。また、家庭で交わされる何気ない会話や出来事を話してくれ、そこには家族に大切にされ、心が満ち足りていることが感じとられる言葉がたくさん聞かれる。

「家族にしてもらってうれしかったことはありますか。」のアンケートの質問に対しては、自分の好きな食べ物を作ってくれた、物品購入、イベントや外出など、自分にとって直接感じられる喜びに対しては、気付くことはできたが、掃除・洗濯などの家事や病気の時の看護など、日常生活で当たり前にしてもらっていることへの気付きは少なかった。

「家族のためにしてあげたことはありますか。」のアンケートの質問に対しては、お手伝いが多かったが、決められたお手伝いをしている児童は少なかった。

これらの結果から、家族の思いやりや世話を当たり前と思って受け止めてしまったり、家族に頼ってしまったりしているところがあり、家庭生活において受け身の立場であることが言える。家族が自分のために、たくさんしてくれていること、自分がどれほど大切にされているかということに、なかなか気付いていない。

そのため、本授業を通して、家族を敬愛し、家族のために役立つとする心情を育てることは大切なことであると考え、本授業を設定した。

#### 3 教材観 教材名「おかあさんのつくったぼうし」(出典：いきるちから1 日本文教出版)

本教材は、お母さんに帽子を編んでもらった主人公「アンデルス」の行動を中心に、4つの場面で構成されている。

1. お母さんに、新しい帽子を編んでもらって、アンデルスは、うれしくてそれをかぶって外に出る。
2. 御殿の前で王女に会い、部屋に案内され、「帽子をぬいで、お菓子を召し上がれ。」と言われるが、アンデルスは両手で帽子を押さえてはなさない。
3. そこへ王様がやってきて、アンデルスがかぶっている帽子を見て気に入り、金の冠と交換しようと言うが、アンデルスは夢中で両手で帽子を押さえ、御殿から家へ一目散に逃げ出す。
4. 御殿での出来事を家族に話すと、兄さんからは「冠と交換すればよかったのに。」と言われるが、アンデルスは「お母さんの作った帽子よりいいものはない。」と言い切る。それを聞いてお母さんはアンデルスを強く抱きしめる。

本教材は、主人公アンデルスの行動に、児童が自然な感情としてもつ、お母さん大好きという気持ちを重ねることができる教材である。金の冠と交換した方がよいという兄の思いと、母からもらった帽子を大切にしたいというアンデルスの思いを比較させることで、アンデルスの母を思う気持ちを深く考えさせることができると思われる。アンデルスが、王様から金の冠と帽子を交換しようという申し出を断った思いが家族に伝わることで、母をはじめ家族全員が温かい気持ちになり家族の仲が深まる。本教材は、家族愛や家族が支え合って生活をしていく大切さについて気付かせることができる教材と考える。

#### 4 校内研修との関わり

本年度の本校の校内研修の主題は、「自他を大切にし、よりよく生きようとする児童の育成」であり、副主題は「多面的・多角的に考えるための発問や交流活動の工夫を通して」である。

本校の児童の実態として、自分に自信がもてず発表できない、善悪の知識はあっても、実際の場面で正しい判断ができない、相手の意見を取り入れ、自分の考えを深めることができないなどが挙げられる。そこで、本校ではこの実態を踏まえて、道徳の授業において、「ねらいを踏まえて主人公や教材に対する立ち位置を変えた発問をすることにより、児童の多角的・多面的な思考を促す」「児童一人ひとりが自信をもって話し合い、考えを深めていけるような交流活動の工夫」を指導のあり方の軸として、本年度の研修に取り組むこととした。

本授業において、導入の道徳的価値を自分のこととして考えさせる場面では、事前アンケートの結果を提示して「家族にしてもらって嬉しかったこと」に触れ、家族にしてもらっていることはたくさんあるのに、自分が家族のためにしていることは少ないという結果を再認識させ、自分事として問題意識を高められるようにする。

発問の工夫について、教材文についての基本発問ではアンデルス（主人公）や兄の心情や考えを問う「共感的な発問」「分析的発問」を行い、兄の合理主義的な考え方に対して、アンデルスの母親の愛情を重視する考え方を比較していくことで人間理解を深め、主人公の行動を多面的に捉えられるようにする。中心発問では、アンデルスへの自我関与を促しながら自分の気持ちや考えを明らかにする「投影的な発問」を行い、自分事としての意識を高めながら価値理解を深め、家族を敬愛する大切さを多角的に捉えられるようにする。また、補助発問では、お菓子や高価なものへの誘惑を喚起したり、心を込めて作ってくれた人の心情に触れさせたりする「揺さぶり」を行い、児童の思考を活性化させて深く考えさせるようにする。

交流活動の工夫について、「自分に自信が持てず発表できない」という実態を踏まえ、アンデルスが、お兄さんから「冠と交換すればよかったのに」と言われた場面で、自分は、お兄さんの考え方とアンデルスの考え方とどちらに近いのかについて、赤白帽子で自分の立場を明確化・可視化させる。また、中心発問を受けての交流活動では、ペアで自分の考えを伝え合った後、全体で交流する。これらにより、自他の考え方を比較しながら話し合わせることで対話の活性化を図っていくようにする。

以上により、家族を敬愛する大切さに気づき、家族のために役立とうとする道徳的心情を育てるようにする。

## II 本時の学習

1 **ねらい** お母さんの手作りの帽子を王様の冠と交換しなかったアンデルス（主人公）の思いを考える活動を通して、家族を敬愛する大切さに気づき、家族のために役立とうとする道徳的心情を育てる。

### 2 展開

主な学習活動 <b>主な発問（○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問）</b> 予想される児童の反応「S」	<b>○指導上の留意点</b>
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 （2分） <b>S</b> ：家族にしてもらってうれしかったことはたくさんあるな。でも、してあげたことは少ないかも。  <b>&lt;めあて&gt;</b> かぞくのたいせつさや、かぞくのためにできることについてかんがえよう。	○事前アンケート結果を提示し、日常生活の中に、自分が家族にもらっていることがたくさんあること、家族からもらっていることはたくさんあるのに自分が家族のためにしていることが少ないことに気付かせ、本時のめあてにつなげるようにする。

2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分)

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(28分)

○「帽子を被って外へ出たときアンデルスはどんなきもちだったでしょうか。」(1の場面) 【共感的】

S: うれしい。

S: おかあさんありがとう。

○「帽子をおさえて、お菓子を食べなかったり、王様の御殿から一目散に逃げ出すときも、帽子から手を離さなかったりしたのはなぜでしょうか。」(2、3の場面) 【分析的】

S: 帽子を脱ぎたくないから。

S: 帽子をとられたくない。

S: お母さんが、編んでくれた帽子だから。

S: 気に入っているから。

◇「おいしそうなお菓子がいっぱいあるし、金の冠は高価だよ。」

S: お菓子や冠よりも帽子の方が大事。

○「お兄さんの『金の冠と交換する』考えると、『交換しない』アンデルスの考えと、みんなはどちらの考えに近いですか。」(4の場面) 【共感的】

<交換するお兄さんの考え(白)>

S: 冠の方が高い。

S: 売ればお金持ちになれる。

S: お金が入れば何でも買える。

S: また、新しい帽子を編んでもらえばよい。

<交換しないアンデルスの考え(赤)>

S: 冠よりもお母さんの帽子の方が大切。

S: 世界に1つしかない帽子。

S: お金では買えない。

◎「お兄さんに『とりかえればよかったのに。』と言われたら、みんなならどう答えますか。」 【投影的】

S: お母さんの気持ちがいっぱいこもっているから嫌だ

S: お母さんが自分のことを思って編んでくれた大切な帽子だからとりかえない。

S: せっかく編んでくれたのに、交換したらお母さんがかわいそう。

◇「お母さんは、どんなことを思いながら帽子を編んでいたのかな。」

S: アンデルスが喜んでくれるかな。

S: アンデルスに似合うかな。

S: アンデルスが寒くないように。

○登場人物の気持ちや場面、状況を焦点化して考えられるように、紙芝居にして範読をする。

○1から3の場面は動作化を取り入れ、アンデルスの気持ちに寄り添えるようにする。帽子をかぶって外へ出たときの気持ちを、赤白帽子をかぶって動作化することで、自分事として捉えさせて嬉しさに気付けるようにする。

○心情絵を効果的に貼り、アンデルスの心情の変化を捉えられるようにする。

○児童が欲しいと思われる、お菓子や金の冠を前にしても、帽子のほうを大切に思うアンデルスの気持ちを、動作化で押さえさせる。

○児童のつぶやきに対して、お菓子や高価なものへの誘惑を喚起させる「揺さぶり」の補助発問を行うことで、アンデルスの思いを捉えさせ、帽子を大切に思う思い、お母さんへの愛情を理解できるようにする。

○アンデルスや兄の心情や考えを問う「共感的な発問」を行い、兄の合理主義的な考え方とアンデルスの母親の愛情を重視する考え方を比較していくことで人間理解を深め、主人公の行動を多面的に捉えられるようにする。

○お兄さんは白、アンデルスは赤の赤白帽子を被らせ、自分の立場の明確化を行い、それぞれの理由についての意見を全体で交流させることで、お兄さんの考え方とアンデルスの考え方を比較させ、判断する考え方は人によって異なるということに気付かせていく。

○アンデルスへの自我関与を促しながら自分の気持ちや考えを明らかにする「投影的な発問」を行い、自分事としての意識を高めながら自分の考えをワークシートに記述させることで価値理解を深め、家族を敬愛する大切さを多角的に捉えられるようにする。

○自他の考え方を比較しながら話し合わせることで対話の活性化を図っていくため、考えをペアで伝え合った後、全体で共有させていく。

○帽子に込められたお母さんの思いに着目させる補助発問を行うことで、異なる視点からの揺さぶりをを行い、他に代わるものがない唯一の帽子であることを多面的に捉えさせていく。

<p>○「お母さんは、黙ってアンデルスを強く抱きしめました。この時、二人はどんな気持ちだったでしょう。」 【共感的】</p>	<p>○場面絵の2人の表情に着目させることにより、家族愛を感じ取れるようにする。</p> <p>○お母さんの気持ちとアンデルスの気持ちをハートメーターで表させることで、お互いが大切に思っている気持ちを可視化させ、家族を敬う気持ちが互いの喜びにつながることを感じとらせていく。</p>
<p>&lt;アンデルス&gt; S：お母さん大好き。 S：帽子を作ってくれてありがとう。 S：喜んでくれてよかった。 &lt;お母さん&gt; S：帽子を大切にしてくれてありがとう。 S：帽子を作ってあげてよかった。 S：お母さんはアンデルスのことが大好きよ。</p>	<p>○導入のアンケート結果に戻り、家族からしてもらっていることがたくさんあるが、特別なことでなくても、毎日当たり前のようになっていることがあることに気付かせる。</p> <p>○家族のために、自分にできることを手紙形式で書かせることにより、実生活と関わりをもたせながら実践意欲を高められるようにする。</p>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考え、振り返りをする。(10分)</p> <p>○「大切な家族のために、自分は何ができるか考え、手紙でアンデルスに伝えましょう。」</p>	<p>&lt;アンデルスへの手紙&gt; S：おてつだいをたくさんしたいです。かぞくによろこんでほしいです。 S：いもうとや、おとうとのせわをしてあげたいです。 S：しょっきあらいをがんばりたいです。</p>
<p>◆評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや発言から、「家族を敬愛する大切さについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。</li> <li>・ワークシートや発言から、「家族を敬愛する大切さに気づき、家族のために役立つことについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。</li> </ul>	